

平成29年度 教育総務部 方針書

教育総務部長 見田貞一郎

1. 部の使命（役割）

「楽しく学び郷土愛あふれるまちづくり」の実現

- ・安全で安心して学べる教育環境の整備
- ・活力ある地域と心豊かな人を創る生涯学習の推進
- ・よこての伝統部文化の継承と再発見

2. 平成29年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・十文字地域小学校統合事業の推進と小中学校の長寿命化改良事業の実施
- ・生涯にわたる読書活動への支援と図書館における郷土資料収集の強化
- ・歴史文化資源の発見・再発見と保全・活用及びその情報発信

3. 平成29年度の『スローガン』

縁の下の力持ち

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・安全で安心して学べる教育環境の整備
- ・図書館サービスの更なる充実
- ・埋蔵文化財発掘調査の推進及び文化的資産の保護と活用

5. 重点取組項目

(1)	項目	安全で安心して学べる教育環境の整備
	取組内容	・十文字地域統合小学校用地の円滑な取得と地元への丁寧な説明 ・横手南中学校校舎等改修事業の実施と統合準備会（仮称）を中心とした円滑な統合推進 ・増田中学校校舎等長寿命化改良事業の実施 ・新規導入した教員用パソコンの順調な運用支援
(2)	項目	図書館サービスの更なる充実
	取組内容	・子ども読書活動推進計画（H26～H30）の検証と、次期計画策定に向けた取り組みのスタート ・市民の学びと研究・情報交流の場として、資料の収集・保存と提供の強化 ・新平鹿図書館の10月下旬オープンに向けた準備と、具体的な運営内容の決定およびその実践
(3)	項目	埋蔵文化財発掘調査の推進及び文化的資産の保護と活用
	取組内容	・後三年合戦関連遺跡調査の継続（金沢城跡東側の高所平坦部） ・県内外の大学等と連携した遺構・遺物の有効活用方法検討 ・『横手を学ぶ郷土学』の本格的実践 ・市内の近代化遺産や歴史的建造物の詳細調査を行う

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

(1)十文字地域小学校統合事業については、説明会の開催、個別訪問の実施により用地関係者14名の理解を得て用地及び物件補償の契約が完了した。横手南中学校と山内中学校の統合準備として、当該2校と山内小学校の3校関係者による統合準備会を5月と9月の2回開催し、各種調整をおこなった。また、統合に伴う横手南中学校の改修工事も順調に進捗しており、10月10日完成見込みとなっている。H29～31年度で計画している増田中学校校舎長寿命化改修事業については、今年度事業として仮設校舎建設工事を発注し実施中であり、来年2月末の設置完了を目指して進めている。

(2)図書館事業については、子どもの読書活動を推進するため市民ボランティアとの連携による読み聞かせを各図書館で月1回実施している。また、学校司書との合同研修を年3回計画しているうち、上期で1回実施した。新平鹿図書館については、10月末オープンに向け順調に作業が進められている。

(3)後三年合戦関連遺跡の発掘調査は継続中であるが、文化庁に調査報告書を提出していた「陣館遺跡」について、「大鳥井山遺跡附陣館遺跡」として史跡「大鳥井山遺跡」に追加指定するよう、国の文化審議会から文部科学大臣に答申が出された。大学との連携としては、一本杉遺跡の発掘調査、報告書作成を青山学院大学と、また、雄物川資料館での和鏡展示等を国学院大学と共同で実施した。総合テキスト「よこてだいすき」を活用した「横手を学ぶ郷土学」が各学校に開始されるとともに、テキストフォローのためのホームページを開設した。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

(1)十文字地域小学校統合事業については、計画されている事業が順調に進められており、年度内に予定されている地質調査は11月上旬に発注され、来年1月31日の完成を見込んでいる。周辺施設担当部局との連携を密にして情報を共有し来年度の実施設計にあたる。12月16日に山内中学校の閉校式典が挙行され、より具体的な統合準備が進められる。スムーズに新年度がスタートできるよう万全を期する。増田中学校では、年度内に仮設校舎への引越しが必要となるが、学校事業への影響を最小限に抑えるよう関係者が十分に事前協議を行う。

(2)図書館事業については、次期「子ども読書活動推進計画」策定に向け、前期計画(H26～30年度まで)の検証を行うとともに、市民アンケートを実施するなど準備を進める。新平鹿図書館については、11月1日のオープンに万全を期すとともに、複合施設としてのメリットを最大限に活かした図書館づくりに努める。

(3)後三年合戦関連遺跡の「陣館遺跡」が、10月13日に「大鳥井山遺跡附陣館遺跡」として正式に史跡指定となったことにより、歴史的価値が更に向上した。指定されたことを記念して、11月25、26日に金沢孔城館を会場として美郷町と連携して「後三年合戦シンポジウム」の開催を計画している。総合テキスト「よこてだいすき」を活用した「横手を学ぶ郷土学」は各学校に浸透しており、更なる活用を図る。また、市民からの問い合わせ、要望もあるため、頒布や学校外での活用についても検討する。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

今年度は計画から、学校建設・改修、図書館移転、「横手を学ぶ郷土学」の本格実施「など具体的にスタートさせる事業が多い年となったほか、埋蔵文化財の新たな発見など、全体的に大きな動きがあったが、すべての事業が順調に進められ完了することができた。

(1)・十文字地域小学校統合事業は、用地買収、補償、地質調査が終了し、平成30年度実施設計、31～32年度建設工事、平成33年4月の開校に向け順調に進捗している。

・山内中学校、横手南中学校の統合事業は、山内小学校を含めた3校、教育指導部、教育総務部の関係者による統合準備委員会において協議・準備を行うとともに、横手南中学校の改修工事を実施し生徒の受け入れ環境を整備した。

・増田中学校改修工事は、仮設校舎の建設工事が完了し、30年度からの本体改修工事着手の準備が整った。

(2)・図書館事業の内、次期「子ども読書活動推進計画」策定については、前期計画の検証を行うとともに、市民アンケートの実施、子ども読書活動推進委員の委嘱を行い、30年度の事業推進体制を整えた。

・平鹿図書館については、開館後順調に利用者が増加し、1日平均104人と前年に対し2倍以上となっており、複合施設としての効果が表れている。今後更なるサービス向上を図る。

・10月に横手市長が実行委員長となり、秋田県との共催で「ふるさとの文学と読書のつどいin横手」を平鹿生涯学習センターにおいて開催し、読書推進の機運向上を図った。

(3)・文化財関係では、「陣館遺跡」の国史跡指定、圃場整備事業に伴う一本杉遺跡の発掘調査では、古墳時代の集落跡の発見、金沢城跡の調査による金沢柵ではないかと期待される柱材の発見、並びにシンポジウムの開催により県内外に広く横手の歴史文化を発信することができた。

・総合テキスト「よこてだいすき」を活用した「横手を学ぶ郷土学」は各学校で順調に進められ、その内容を共有のフォルダに収納し全学校で情報共有し活用している。